先生は，なかなか趣味の広い方で，金沢大学勤務当時は落語研究会の顧問をなさいましたが，ご自分でも山遊亭銭朝の名で，植物関係のパーテイの折などに，落語をご披露されました．また，料理もお得意で，学生時代には木曾坂の職員寮に結婚前の先生をお訪ねして，手作りのおでんなどをご馳走になったこともありました．これは，暖簾をかけた部屋で模擬店を設え，釜で煮るという本格的なものなので，田舎育ちの私などはびっくりしたものです．コレクションも先生のご趣味で多岐にわたりますが，帽子などの紋章，ぐいのみ，矢立などはかなり集めておられたと思います．

先生と私の関係は，見方によっては少し特別なものかもしれません．直接の師弟関係ということになりますと，正宗厳敬先生になりますが，1953年に創設されたばかりの金沢大学に入学（当時はまず教養部理科Ｉ類に所属）して，すぐ，紹介されたのが少し前に赴任された里見信生先生でした．シニアに進級した当時は，教授の講義には助手の先生が同伴されるのが慣わしでした．植物第一講座の学生は少なく，私ともう一人の二人だったものですから，その同級生が欠席すると，教官が二人に学生は私が一人の割合になり，なんとも気まずい雰囲気となるのでした．里見先生が困惑しておられた様子が懐かしく思い出されます．それ以来，標本貼りの仕方からはじまって，近年はあまり多くの審議会の委員などを兼任してはならない理由にいたるまで，いろいろ，具体的なお教えを頂きました．これも私が若い頃，ちょうど，先生が講師になられた時期に，少しの間でしたが正宗厳敬教授のご好意で助手として勤めたり，その後も勤務先が理学部の近くだったこともあって，本当に親しくさせていただきました．教室や雑誌関係のことで重要な問題があると，意見をお聞きになることもありました．

いま，先生は徳島市の古刹，丈六寺にある先祖伝来のお墓に静かに眠っておられます．心からご冥福をお祈りいたします．

（古池　博）

新　刊

□安藤敏夫，小笠原亮（監），森　弦一（編）：**日本花名鑑 2**　386 pp.　2002.　¥2,980. 日本花名鑑刊行会.

先に紹介したものの第２号である．2000年の市場流通品の中から第１号と重複しない約400種類を収容した．本書のグループ分けは市場での取扱いに合わせてあるが，前号とはその順序が変わり，掲載種類数の少ないグループを先に示してある．本号では前回手をつけられなかったランが，一つのグループとして加わった．ただしオリジンの探索が大変なようで，店頭で見覚えのある花が「詳細調査中」として属名だけ示されている種類もある．前号で問題になったカラー写真の不鮮明は，図の数をへらしてサイズを大きくした結果かなり改善されているが，ものによっていま一息というのもある．索引は１，２号合わせて作られていて便利だが，これは先行き無理になるので，一工夫せねばなるまい．新しい試みなのでいろいろ手直しが必要だろうが，創意工夫で切り抜けてもらいたいものだ．

（金井弘夫）

□Watanabe T., Takano A., Bista M.S. & Saiju H.K. (eds.): **Proceedings of Nepal-Japan Joint Symposium on Conservation and Utilization of Himalayan Medicinal Reseources** 368 pp. 2002. Society for the Conservation and Development of Himalayan Medicinal Resources.

2000年11月にカトマンズで行われたヒマラヤ地域薬物資源の保護と利用に関するシンポジウムのまとめである．参加者約200名，その内日本からは36名，ネパール以外の国から５名が出席し，60件を超えるさまざまな発表が記録されている．シンポジウムの結論としては，ヒマラヤの薬用資源利用の活性化と民生への応用のために，inventory 作りの必要性が述べられ，そのために Department of